

各省における海域環境調査

	調 査 名 等	概 要
環境省	自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査	【干潟調査】 調査期間：平成 14～16 年度 「重要湿地 500」で選定された干潟を中心とした全国 145 箇所の干潟を対象に、全国共通の調査手法により底生生物相を把握。
		【藻場調査】 調査期間：平成 14～18 年度 「重要湿地 500」で選定された藻場を中心とした全国 129 箇所の藻場を対象に、全国共通の調査手法により海草・海藻の種組成、現存量を把握。
国土交通省	調査観測兼清掃船を用いた海域環境調査	平成 15 年 10 月から有明海・八代海において調査観測兼清掃船を用いた定期的な水質、底質、底生生物等の調査を行い海洋環境の実態を把握。 なお、これまでも東京湾、伊勢湾、瀬戸内海においては 10 隻の調査観測兼清掃船により水質、底質、流況の調査を実施。
	定期フェリーによるモニタリング	東京湾湾口部を航行する湾内フェリーに海水採取装置や自動海水解析装置を搭載し、フェリー運行中に水質、流況を連続観察する試み。平成 15 年度から着手。
	海洋短波レーダーを活用した生物調査	特殊な染料で処理した生物に対し、海洋短波レーダーを活用することにより生物種の動態等を把握。 現在、東京湾においてアサリ浮遊幼生を対象とした観測が行われている。
水産庁	水産資源に関する調査及び研究	沿岸域を含む我が国周辺水域に分布している水産資源約 40 種 80 系群の資源動向を把握・評価。更にまぐろ、クジラ等の国際資源について同様の調査研究を実施。

海洋短波レーダー：陸上に設置するレーダーにより広範囲の海表面の流れを面的に測定する機器。